

# 観光を学ぶ学生たち、がんばれ！

## ～流通科学大学特別講座「神戸・瀬戸内学」～

企画課長の塚本です。今回は流通科学大学との連携協定の中で生まれた特別講座「神戸・瀬戸内学」の授業の様子をお伝えしたいと思います。

この講座は、神戸・瀬戸内の素材を多様な視点から自由にアプローチすることで、観光の研究や学修をより興味深いものにしていくという考えに基づき、神戸港や瀬戸内海沿岸地域の観光や歴史、海運などの流通や生活文化などをテーマに私と神戸フィルムオフィス代表の田中まこさんの 2 人の外部講師を含む 10 人の講師によってオムニバス形式で行なうものです。



今年度の講座は、サービス産業学部の観光生活文化・事業学科と医療福祉学科の 1、2 回生約 100 人を対象にしており、その中での私のパートは 11 月 17 日と 24 日の 2 回計 2 コマ「地域主軸の観光政策」です。

まず、全体的な押さえとして国の観光施策について講義し、その次に具体的事例として神戸での産業観光ツアーを通じた観光地域づくりの話をすることにしました。内容的に堅苦しさがあるのは仕方ないとしても、できるだけ関心を持ってもらいたいと考え 17 日には「皆さんは春秋の大型連休をブロック別に分けることについて賛成か反対か」を聞いてみました。結果は賛成が 61%、反対 33%、その他 4%。12 月に発表した世論調査の賛成 28%、反対 56%、その他 16%と比べるとほぼ真逆となっています。講義では休暇分散化についての狙いや仕組みに加えて、これに対する賛成側と反対側の両方の意見を披露した上で学生自身の声を求めましたので、この差は理解度合いによるところも大きいのではと感じました。

24日には「皆さんが考える神戸の産業魅力を伝えるツアーはどんなものか」を聞いてみました。これは私の講義がまずかったのか、あるいは神戸に産業というイメージがあまりないのか、正直言って不作でした。中には地下鉄海岸線と震災とを結びつけてまちや産業・商業の復興をテーマにしてはどうかとか、川重の造船と鉄道車両、灘の酒蔵・酒造り、下町の商店街など地域の人にもヒントになるような意見もありましたが、どうしてもデートコースやスイーツ食べ歩きなど産業魅力の満喫という視点ではないなと思うものが大半でした。これはこれでターゲットとする世代により相当に感覚のズレがあるということかもしれず、意外と産業観光は手強いぞということを示してくれたと思っています。

人口減少・少子高齢化時代における地域活性の切り札として、これから地域主導での観光地域づくりは本格化を迎えます。産業、文化、歴史、グリーン、エコ、ユニバーサル、スポーツ、医療など様々な分野でどう観光と結びつけていくかを模索しながら観光地域づくりが進んでいくでしょう。講義のあと、「地域づくりに関心があって将来コンサルみたいなのところに就職できればと思っていますがどのように勉強したらいいですか」と聞いてきた学生がいました。講義に対する質問もうれしいですが、こういう反応もホント応援したくなります。



流通科学大学だけでなく観光を学ぶ学生たちには、ぜひこれからも志を強く持って学んで欲しいし、私たちも全力でサポートしていきたいと思っています。

学生にどんなアドバイスをしたかはご想像にお任せします。